

## 平成 2 6 年度行政評価（外部評価）議事要旨

議 事 概 要	
会議の名称	平成 2 6 年度行政評価（外部評価） ※平成こども塾事業
開催日時	平成 2 6 年 1 2 月 8 日（月）午前 9 時 4 5 分から午前 1 0 時 4 5 分まで
開催場所	市役所西庁舎 3 階学習室 1 ・ 2
出席者氏名	委員 中島 美幸 委員 杉山 知子 委員 下崎 一洋 委員 江頭 隆行 委員 山口 秋男 担当課 ぐらし文化部長 布川 一重 ぐらし文化部次長兼生涯学習課長 加藤 正純 平成こども塾担当課長 伊藤 正尚 平成こども塾主事 鈴木 明伸 事務局 行政経営部長 松井 豊明 行政経営部次長 三浦 肇 経営管理課長 高木 昭信 経営管理課長補佐 門前 健 経営管理課主事 清水 裕穂
傍聴者人数	6 人
会議の公開・非公開	公開
審議の概要	平成こども塾事業について
問 合 先	長久手市行政経営部経営管理課 0 5 6 1 - 5 6 - 0 6 0 0
備 考	

担当課	<p>＜平成 2 6 年度長久手市行政評価（外部評価）資料に沿って説明＞</p> <p>長久手市は人口が増えているが、将来この事業がどうなるのかが不安である。素晴らしい事業であるので、拡大して行って欲しい。</p> <p>4 月現在で長久手市の子どもの数は 3, 6 8 3 人である。長久手市は人口がどんどん増えている状況である。ボランティアの力添えがあってこの事業は成り立っているため、ボランティアの方たちとの連携強化が必須である。ボランティアも子どもとのふれあいを楽しみにしている。</p>
委員	
担当課	

委員

平成こども塾プログラム事業について、8回実施し、215人参加とあるが、この参加者は公募か。

担当課

広報紙及びホームページで広報をするとともに、小中学校にこども塾だよりを配布しており、そこから応募してもらっている。

委員

この8回は人気のあるプログラムに応募が集中するのか。それとも、全体的に募集人数より多く応募があり断っているのか。

担当課

昨年までは電話でしか募集していなかった。人気が出るだろうプログラムについては、往復はがきで募集することもある。応募多数となると先着順となる。

委員

倍率はどのくらいか。お断りするケースは多いのか。

担当課

特に食べ物関連のイベントについては人気があり、2倍から3倍の倍率がある。スペースや対応するスタッフの問題等を考えるとどうしても定員が決まってきてしまう。

委員

狙いとして、長久手を好きになってもらって定住してもらいたいというものがあると思うが、高齢者との交流や世代間交流はあるのか。

担当課

すべて世代間交流と考えてもらってもよいと思う。長久手にある資源を使うことで長久手を好きになってもらいたいという思いがある。

委員

学校連携について、先生に対してアンケートは行っているか。

担当課

先生とは、年に2回、5月と11月に子ども塾連携事業運営委員会を開催しており、年間の活動での子どもの反応などを把握している。

委員

事業の成果は98%や96%でとても満足度の高い結果となっているが、逆に2%や4%の方はなぜ満足していないかも把握することは重要である。学校の先生にもいろいろなアイデアがあると思うので、アンケートをすると良いと思う。

担当課

アンケートまではいかないが、感想はいただいている。

委員

平成こども塾の場所は、車でないと参加できないような場所か。生徒が自由に遊びに行ける場ではないのか。

担当課

そこは課題であると思っている。広場で自由に遊んでもらえたら良いと思うが、プログラムがありあまり空いている時間もないのが現状である。

委員

月曜日が休館日になっており、9時から17時まで開館と書いてあるが、稼働率はどのようか。

担当課

一般貸出はかまどのスペースのみだが、空いているのは月に1、2回程度である。

委員

ボランティアはどのような関わり方か。組織として関わっているのか、個人で関わっているのか。

担当課

学校連携プログラムでは、野外活動同好会、ハートの会、食生活改善委員会、愛知県レクリエーション研究会といった組織が関わっている。平成こども塾プログラムは大学生がボランティアで関わり、専門プログラムは委託で行っている。ボランティアの大部分はサポート隊で、サポート隊の登録は現在62人いる。年間で契約をしているが、その方たちが年間110本のプログラムを行っている。全くの無償ではないが、無償に近い金額でお願いしている。

委員

ボランティアの方たちが気づかれたことをプログラムに反映させる方法はあるのか。

担当課

全てのプログラムのあとに、講師やボランティアの方にこのプログラムはどうだったかというアンケートを行う。サポート隊の方とは月1回世話人会を開いており、意見交換を行っている。

プログラムの食べ物が食べられなかった子など、プログラムになじめなかった子の満足度が低いのもかもしれない。

委員

地主の好意で竹林や田んぼを借りているという話が合ったが、代替わりがあった場合などに家族の事情で使えなくなった時の対策等は考えているか。

担当課

現在は近隣の方の力を借りて、無償で貸していただいている。代替わりした場合はそういった問題も出てくると思う。第5次総合計画に木望の森構想という構想があり、今ある緑地の保全について取組んでいきたいと考えているので、その中で解決できればよいと考えている。

委員

平成こども塾プログラムの中で参加者が参加費を負担するものがあるのか。

担当課

南木曾町のプログラムの参加費は500円であった。他のプログラムについては、材料費代として平均して200円から300円いただいている。保険については、年間でこども塾が加入しているので、参加者の負担はない。

委員

参加費がほとんどないと満足度が常に高く、永遠に続く事業になる

という危惧はないのか。

担当課

受益者負担という考え方もあると思うが、子ども中心のプログラムであるので、あまり赤字であるかどうかは考えていない。南木曾町のプログラムは赤字かもしれないが、他のプログラムに関しては、ほぼ実費であると考えている。

委員

子どもに関しては、市が育てていくということが大事であるので、受益者負担は不要であると思う。

委員

現在も他課との連携を取組んでいると思うが、市としてどういった連携を取組んでいくのか教えていただきたい。

担当課

平成こども塾の当初の目的は長久手市東部における田園バレー構想、農都共生という観点から始まっている。平成こども塾のプログラムは、平成こども塾マスタープランに基づいて行っている。元々は農業を所管する課に属していたが、学校連携を中心にシフトしていくため、教育の担当課に移り、昨年の機構改革で生涯学習課に移った。現在マスタープランの改定を行っており、農都共生を軸とするが、子育て、環境、社会教育といった観点も踏まえていく必要があると考えている。くらし文化部には観光から文化の家までいろいろな課があるので、まずは部内で連携をしていきたいと考えている。平成こども塾は定性的な面から見るととても評価の高い事業だが、このノウハウを市内の児童館などに生かしていきたい。アクセスは悪いが、とても環境に恵まれている場所にあるので、木望の森構想の中で公園などを作り、常に人が集まるような環境になると良いと思う。今現在は直営で運営しているが、将来は市民の方に移行していきたいと考えている。このため、行政の役割、市民の役割、学校の役割などを検討していかなければならないと考えている。

委員

市全体に広まると違った課題も出てくるかもしれないが、良いことであると思う。

一緒に参加する親の動向はどのようなか。参加されて終わりか、サポート隊に興味を持っていただけるのか。

担当課

子どもの中には、こどもファーム会員として活動する子どもが今年度26人いる。この子どもたちは毎週土曜日に活動している。その子どもたちとはつながりが深く、小学校中学校を卒業しても手伝いに来てく

	<p>れる子たちが何人かいる。 こどもファーム会員についてきてくれる親も毎週来てくれるので、その方たちもサポート隊員まではいかないが、一緒に活動をしていただいているので、つながりを深め、連携していけたらよいと思う。</p>
委員	<p>まき割りは男の子、料理は女の子といったような男女の違いというのではないか。</p>
担当課	<p>女の子の方が積極的で、分け隔てなく行っている。</p>
委員	<p>男女の参加者の比率はどのようなか。</p>
担当課	<p>ほぼ半々である。ついてくる親に関しても、お父さんがついてくることもあるので極端に偏っていることはない。</p>
委員	<p>男女別の統計を取っていただければと思う。男女共同参画が進んでおり、活動領域に男女の差があるかもしれないので、差があった場合は事業の課題としてとらえていただきたい。</p>
委員	<p>マスタープランの改定の話が出たが、会社であればプロジェクトを立ち上げて他課との連携を図るが、そういったノウハウを共有する仕組みはあるのか。</p>
担当課	<p>現在そういった仕組みはない。こども塾でやれることを各課に PR し、やりたい事業を各課から出してもらう形である。もう一步進んだ連携を行っていけるとよいと思う。</p>
委員	<p>一つの会議体を設けて行っていくのも方法だと思う。</p>
担当課	<p>連携に関しては、部の中では連携しやすい。連携はとても重要であるが、仕組み自体はまだない状態である。こども塾がこども塾だけで完結するのではなく、外に出ていき市内のいたるところでこども塾のノウハウを提供していくことが重要である。学校連携の講師もほとんどが市民である。サポートプログラムも全て市民で構成されており、高齢者が多い。こども塾は世代間の交流で、コミュニケーション能力を向上させることも目的としている。これから市民に関わっていただいて、連携の仕組みを作りつながりを増やしていきたい。</p>
委員	<p>こういった事業は近隣の市町村では例を見ないと思うが、実際に他の市町から視察に来ることはあるのか。</p>
担当課	<p>このプログラムは市民に限らず、他の市町からの方も受け入れているので、わずかではあるが、名古屋市など近隣市町からも参加されて</p>

	<p>いる。</p> <p>過去には数件視察もあった。</p> <p>瀬戸市や豊田市には環境を学ぶ施設があるが、いろいろな分野を学ぶ場としては珍しいかもしれない。</p> <p>参加者の制限もあるので名古屋市民に大々的に PR することはできないが、近隣にノウハウを提供することは行っていきたいと思う。</p> <p>参加者の倍率が2、3倍ということは、市内の子どもの需要にも応えきれしていないということなので、名古屋市まで広げて倍率が上がってしまっては困る。市民の需要に応えるために予算を拡充し、事業規模を拡大することは不可能か。</p>
委員	<p>参加者の倍率が2、3倍ということは、市内の子どもの需要にも応えきれしていないということなので、名古屋市まで広げて倍率が上がってしまっては困る。市民の需要に応えるために予算を拡充し、事業規模を拡大することは不可能か。</p>
担当課	<p>スペースや安全面などを考えると、簡単に拡充することができないプログラムもある。</p>
委員	<p>外部評価の対象以外の事業に関しては、子どものニーズに応えられているか。</p>
担当課	<p>サポート隊のプログラムと専門プログラムも人気が高く、プログラムによって偏りはあるが倍率が高いプログラムが多い。</p>
委員	<p>毎回抽選から外れてしまう子どもがいたりしないか。</p>
担当課	<p>公正なる抽選の中で行っている。半分ぐらいのプログラムは全員に参加していただいている。サポート隊のプログラムは、プログラムによっては少し定員をオーバーしても受け入れていただいている。</p>
委員	<p>子どもの期待を裏切らないように行っていただければと思う。市外の子どもの割合はどのようか。</p>
担当課	<p>小中学校にプログラムを配布するまでは、市外の子どもの割合は2、3割いたが、現在は1割いるぐらいである。</p>
委員	<p>プログラムの用紙は誰が作成しているのか。</p>
担当課	<p>職員が作成している。</p>
委員	<p>世代間交流という話が出たので、別枠でお年寄りの方の参加枠があってもよいのではと思う。サポート隊まではいかないが1日だったらやりたいという人もいるかもしれない。</p>
担当課	<p>そういったことも行くとまたつながりが広がると思う。</p> <p>小学校の先生が薪を焚くことが出来ないという話があり、先生がサポート隊に教えてもらうというプログラムも面白いと思う。</p>

委員

とても有意義な事業であるので、今後も続けていただきたい。また、世代間交流や平成こども塾の活動を全市域に発展させていくということを目指しているので、他課との連携の仕組みを構築し、より一層長久手市の子どもたちが豊かに育つ環境整備を行っていただきたい。